

演題 『 咬合調整の少ない補綴と噛める補綴を目指す
～私の4つの視点～ 』

歯科糸瀬正通医院 根々 まり

昨今、様々な咬合の考え方やコースがある中、それぞれが目指す方向は、今回のテーマと変わらないと考える。その手法の違いなのか、説明や解釈の違いなのかと、問いながら、未だ、咬合は難しいと考える歯科技工士が多いのではないかと。

また、咬合器についても色々な特徴を持った物があり、性能の良い咬合器なら解決すると思っても結果が出ず、がっかりする事もしばしばあり、未だ咬合についての着地点が見つからず、補綴製作をしているのが現状ではないかと思う。

今回は、私の臨床経験の中で、少ない咬合調整と噛める補綴を目指すため、模型の考察から得た咬合平面の決定方法と、咬合に関する4つの視点を取り入れた、補綴の考え方と私なりの着地点をご紹介します。